



上映会 恵泉祭 特別企画

恵泉女学園 花と平和のミュージアム主催

日時：2015年11月7日(土) 10:30~12:30

場所：恵泉女学園大学 J202教室

入場：無料

「わたしの、終わらない旅」上映会

日時:2015年11月7日(土) 10:30~1

2:30

場所:恵泉女学園大学 J202教室

入場:無料

坂田雅子監督 プロフィール
1948年、長野県生まれ。京都大学文学部卒業。70年にグレッグ・デビスと出会い結婚。夫のフォトジャーナリストとしての仕事を手伝いつつ、76年から写真通信社インペリアル・プレス勤務。98年IPJを設立し、社長に就任。2003年グレッグの死をきっかけに枯れ葉剤の映画を作ることを決意、アメリカで映画制作を学ぶ。04年から06年までベトナムと米国で被害者家族、ベトナム帰還兵、科学者等にインタビュー取材、撮影を行う。2007年映画『花はどこへ行った』を完成させ、東京国際女性映画祭を皮切りに岩波ホールほか全国各地で上映、大きな反響を呼ぶ。パリ国際環境映画祭特別賞ほか、第26回国際環境映画祭審査員賞、第17回アース・ビジョン地球環境映像祭 環境映像部門入賞、審査員特別賞、第63回毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞、2008年度全国映画賞〈特別賞〉ほか、を受賞。

2011年第2作『沈黙の春を生きて』(Living the Silent Spring)を発表、枯れ葉剤のもたらす悲劇を、アメリカ合衆国とベトナムに生きる被害者の交流を通して描く。2015年3月、福島第一原発事故をきっかけに取り組んだ3作目、『わたしの、終わらない旅』を発表。東京・ポレポレ東中野で公開後、全国順次公開。その後各地で自主上映が行われている。11月にはアメリカでの上映が予定されている。群馬県みなかみ町在住。

解説:原嶋 夕佳(恵泉女学中学・高等学校教員)

対談:坂田雅子監督

× 上村英明(恵泉女学園大学平和文化研究所)

* ご案内 *

核は、戦争用であれ、平和利用のものであれ、それをどう描くかは難しい。爆弾から描き始めれば、それは冷徹な戦争のメカニズムと被害者の想像を絶する悲しみを描くことになり、発電所から始めれば、科学と技術の問題を紹介しながら、それを経済成長や利権に利用する権力とそれに翻弄される人たちを描くことが多い。

しかし今回上映する映画は、個人あるいは家族の心情から核が生み出す不安を探る旅に出た女性の物語である。

1997年、監督の母である坂田静子さん(恵泉女学園卒業生)は、フランスのラ・アーグ核燃料再処理工場の対岸に住む長女の不安を訴える手紙を受け取ったことから、子どもたちの健康を心配して、反核運動を始めた。母亡き後、2011年福島原発事故に出会った次女・雅子監督は、母の遺した資料に触れ、核の現場を歩く旅を始めた。そこで出会った人たちの思いに、共に耳を傾けてみたい。

主催:恵泉女学園 花と平和のミュージアム

共催:恵泉女学園大学平和文化研究所
恵泉女学園大学大学院平和学研究所